

要介護高齢者レクリエーション活動援助の現状と課題

ーレク・セミナー主催の経験を踏まえてー

○上野 幸(余暇問題研究所) 廣田治久(〃) 山崎律子(〃)

キーワード： 要介護高齢者 高齢者レク活動援助

1. はじめに

この研究は2007年の本学会大会での「高齢者介護サービス事業施設の職員における高齢者レク活動の支援力向上についての期待」(レクリエーション研究 59号 2007)と2008年の「高齢者介護サービス事業施設の職員における高齢者レク活動支援力の向上についての期待(2)～セミナー参加者における経験年数別によって～」(レクリエーション研究 61号 2008)の継続研究である。2007年にはレク活動支援における問題意識を分析し、そこからKJ法により11項目にまとめ、2008年にはさらに、職員の経験年数から見た傾向を分析した。その結果、レク活動援助に直面している職員は、“その経験を経るにつれ、学びたい内容が具体的で、より現場に即したものである”ことを導きだした。

前回の研究から4年経ち、実際のレクリエーション・セミナーでの様子や参加者からの質問を聞く機会がある中で、要介護高齢者の状況も多様化していることから介護施設職員のレク活動援助の現状を探る必要があると感じた。この間、介護福祉士養成課程において2009年4月から新カリキュラムへ移行され、レクリエーション活動援助法が削減されていることに注目して研究をすすめた。

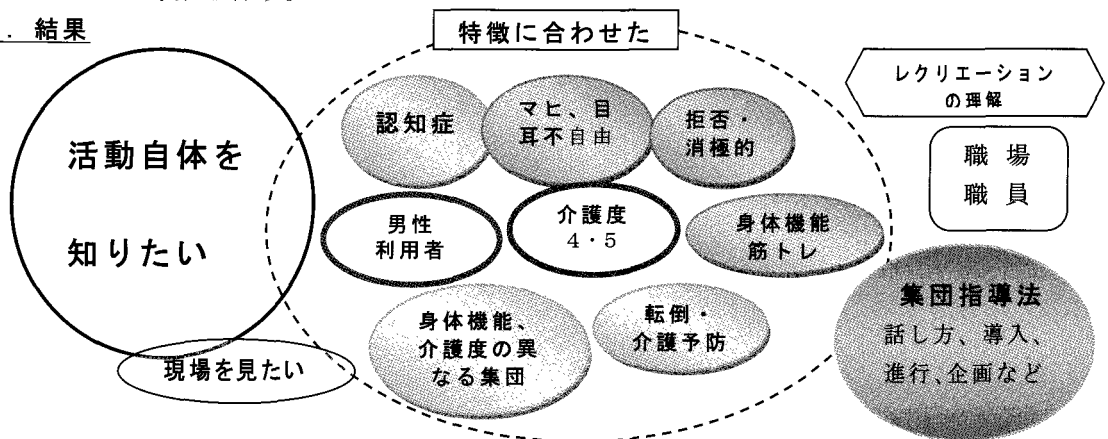
2. 目的

今回の研究は、2007、2008年の継続研究として得られた知見をもとに、レク・セミナー主催の経験を踏まえて、介護職員のレク活動援助のニーズと課題を探ることを目的とした。

3. 研究方法

- ・対象は主催する介護施設職員向けの「レク・セミナー」の参加者。
セミナー開催時期は2012年4/21～7/17 14回開催。
- ・参加者に行ったアンケートから「こんな内容をうけてみたい」に記述された自由回答を抽出。これまでの研究で分類した11項目に照らし合わせ、その結果と経験年数をあわせて考察を行う。

4. 結果



グループKJ法による抽出項目の分類図

5. 考察

経験年数から見て

2年未満～5年未満までが全体の約半数を占めている。介護職に就職して早い時期の研修を施設側が選択していると同時に、実際の介護現場でのレク活動に対する要望も多いと推測できる。

「活動自体を知りたい」について

前回の研究時と同じように最も多い。経験年数が経てもニーズは変わらず、介護現場での毎日の活動に苦慮していることが考えられる。その内容には「身近な物を使ったゲーム」「少人数でできるゲーム」など具体的な援助の状況に近いものが多く、すぐに使える活動の要望である。10年を経ても、活動に対する工夫がなく、そのまま行われていることは、介護の専門職がその現場でレクリエーション活動援助を行うことの難しさを感じる。

「集団指導法」について

具体的には「盛り上げ方」「司会・進行の仕方」などが含まれる。集団指導法の知識や技術の必要性の認識は、5年以上の経験に強く出ている。また、集団指導に対して消極的な職員への教育やレク担当職員の育成についての要望は経験10年以上に見られる。様々な特徴を持つ高齢者の集団に対してより高い技能が求められることから、今後のセミナー等の教育に取り入れていく必要がある。

「特徴にあわせた」について

・ ・ 今回の特徴として以下の3項目があげられる。

- 1) 「マヒや目・耳の不自由」「認知症」など、障害を持つ利用者へのレク活動の要望が多いが、2008年時より減少している。認知症に対する理解が深まっている上にセミナーで具体的なレク活動援助を取り入れている結果であると考えられる。
- 2) 「男性利用者」は、2007年、2008年時にはなかった特徴である。介護現場では男性利用者の対応方法に大変苦慮しており、実際のセミナー参加者からの質問も多い。男性利用者の中には、介護度の低い利用者から認知症の利用者も含まれている。
- 3) 「介護度 4～5」は、介護現場では重度に含まれるが、実際の高齢者の状況にはかなり差がある。身体的な重度で「ねたきりの方」も含まれ、認知症の症状がすすみ、コミュニケーションがとりにくい場合もあり、対応の困難さが推測できる。

6. まとめ（現状と課題）

- ・ 今回の研究では2008年から大きな変化がなかった。
- ・ 高齢者介護職員のレク活動援助に対する要望は現場に即したものである。
- ・ 介護職の経験が10年経ても、レク活動援助自体に苦慮している。
- ・ 要介護高齢者の介護度や身体技能が多様化し、現場での対応が困難になっている。
- ・ 高齢者施設の現場ではレク活動援助への期待が大きいと感じられる。

介護福祉士養成課程におけるレクリエーション活動援助の教育機会が2009年のカリキュラムから変更され、減少しているものの、高齢者の介護現場での要望は高い。専門職を導入していくか、レク担当職員の継続研修が望まれる。今後、要介護高齢者は益々増加し、多様化することを踏まえて、レク・セミナーにおいても介護職員に対するレクリエーション教育の充実を図っていきたい。